

令和7年度第2回 浜松市障がい者自立支援協議会市全体会会議録

1 開催日時 令和8年2月16日(月) 午前9時30分から11時30分

2 開催場所 浜松市役所 北館 101、102会議室
(Zoomを使ったオンラインを併用)

3 出席状況

構成員所属先		氏名
学識経験者	聖隷クリストファー大学	川向 雅弘
医療	メンタルクリニックダダ	大嶋 正浩
計画相談	浜松市相談支援専門員連絡会	鈴木 宏幸
当事者	浜松市浜松手をつなぐ育成会	水崎 裕久
社協	社会福祉法人浜松市社会福祉協議会	欠席
教育	浜松市立中郡小学校	渥美 公恵
入所	浜松市社会福祉施設協議会	石田 公祐
通所	静岡県作業所連合会・わ浜松地区会	海野 洋一郎
児童	児童発達支援事業所連絡会	井上 佳子
専門部会	こども部会	野呂 耕助
	生活部会	山下 由佳
	就労部会	松井 亮
	相談支援部会	雨宮 寛
事務局	中央社会福祉事業所社会福祉課 課長	河合 多恵子
	浜名社会福祉事業所社会福祉課 課長	北村 聡
	天竜社会福祉事業所社会福祉課 課長	芦澤 信之
	障害保健福祉課 課長	柴田 多美子
	障害保健福祉課 精神保健福祉担当課長	鈴木 勝久
	障害保健福祉課 課長補佐	大庭 靖史
	障害保健福祉課 総務調整 G	高橋 彩乃

	障害保健福祉課 指導 G	吉田 直樹
	障害保健福祉課 給付 G	飯塚 康敬
	障害保健福祉課 手当助成 G	内藤 淳
	障害保健福祉課 地域生活支援 G	欠席
	障害保健福祉課 精神保健 G	吉良 祐子
	障害保健福祉課 地域生活支援 G	鈴木 史哉
	障害保健福祉課 地域生活支援 G	白柳 麻衣子
	中障がい者相談支援センター	永田 実枝子
	東障がい者相談支援センター	平野 明臣
	西障がい者相談支援センター	袴田 章彦
	南障がい者相談支援センター	大場 拓弥
	北障がい者相談支援センター	金森 勇人
	浜北障がい者相談支援センター	大柳豆 勇太
	天竜障がい者相談支援センター	那須 将司
	障がい者基幹相談支援センター	後藤 翔一朗
	障がい者基幹相談支援センター	岸 直樹
	障がい者基幹相談支援センター	野島 和樹
	障がい者基幹相談支援センター	小杉 茉巳
	障がい者基幹相談支援センター	本宮 早奈映
オブザーバー	学校教育支援課 課長	南瀬 悦司
	こども家庭部子育て支援課 家庭支援担当課長	仲谷 美樹

4 傍聴者 67名

5 議事内容

(1) 専門部会活動報告

- ・こども部会
- ・生活部会
- ・就労部会
- ・相談支援部会
- ・強度行動障がい児者支援プロジェクト

- (2) 日中サービス支援型グループホーム評価
- (3) 地域生活支援拠点等について
- (4) 地域体制強化共同支援会議後の進捗について
- (5) 次年度の浜松市障がい者自立支援協議会体制について
- (6) その他
 - ・ 5歳児健康診査事業について

6 会議録作成者 障害保健福祉課 地域生活支援グループ 鈴木

7 記録の方法 発言者の要点記録

8 会議記録

(1) 専門部会活動報告（資料を元に説明）

- こども部会
- 就労部会
- 生活部会
- 相談支援部会
- 強度行動障がい児者支援プロジェクト

<意見>

(大嶋委員)

- ・ こども部会で作成しているアセスメントツールについて、出来るだけ浜松市全体で使えるようにするため、外部の児童精神科・小児科の医師にも確認いただき、ブラッシュアップをしている。今後、児童の症例検討等でもアセスメントツールを活用した検討会が今後行われる予定となっている。加えて、校外まなびの教室 350 名程度に対してアセスメントシートを活用し、支援員から効果があると話があった。特に、児童期における支援により青年期やそれ以降の精神障害を減らすことが期待されるため、浜松市全体でアセスメントシートの活用が出来るよう検証を進めていただきたい。

(井上委員)

- ・ こどもアセスメントツールを使い、その結果を児童発達支援の事業所が引き継いで児童の発達支援を行っていくといった流れができるといい。小学校に関してはサポートかけはしシートを使っているので、アセスメントツールとの連携ができるといい。

(大嶋委員)

- ・ サポートかけはしシートは児童発達支援の現場では使われているが、学校ではあまり使われていない現状がある。学校側に通知等では共有できていても、サポートかけはしシートの活用の目的や意味がしっかり共有できていない。学校における支援は特に幼児期の発達の状況を理解してもらうことが重要だと感じる。5歳時健康診査の場面では、幼児期の育った環境が小学校での表れに連動してくるため、サポートかけはしシートだけでは、完全に環境や背景を理解するのは難しいと言える。

(渥美委員)

- ・ サポートかけはしシートは学校側では完全には活用が出来ていないと認識している。しかし、学校側でもサポートかけはしシートを活用することはこどもの支援に有効であり、活用する効果を感じているため、年々、活用に関する意識は高まっていると感じる。こどもアセスメントツールのどの部分がサポートかけはしシートに繋がってくるのかをしっかりと認識することが重要だと感じる。目の前のこどもがどのような環境で成育をされ、家族等とどのような関わりをして現在に至っているのかを知ることができるので、学校側で有効活用ができると話をしている。今後、こどもアセスメントツールやサポートかけはしシートの内容とその内容がどの支援現場で活用できるかをしっかりと認識し共有することができれば、学校の現場でも有効に活用できる。

(鈴木委員)

- ・ 「こどもアセスメントツール活用とこどもの支援の質向上に向けて」提言書のアセスメントツール使用を促進する枠組みの構築の部分で、「計画相談機能強化型事業所（Ⅰ）～（Ⅳ）等」と記載があるが、こちらの「等」とは、段階的にすべての計画相談事業所でこどもアセスメントツールの使用必須化を指しているのか、計画相談機能強化型事業所（Ⅰ）～（Ⅳ）の事業所全てを指しているのかどちらか。

(事務局)

- ・ 今回、提言いただいた「こどもアセスメントツール活用とこどもの支援の質向上に向けて」の提言書の中では機能強化型の事業所を中心にこどもアセスメントツールの使用の必須化を提言いただいたが、市で検討した結果、こどもに関わる全ての事業所については、原則、こどもアセスメントツールの使用を推奨するようお願いしていくよう検討している。

(雨宮委員)

- ・ こどもアセスメントツールは基本、こども全員分作っていく認識でよろしいか。また、このツールは成人期に移行していく場面や成人に対して活用することができるのか。

(大嶋委員)

- ・ こどもアセスメントツールは思春期や大人に対しての活用についても重要なツールだと認識している。大人になって急に精神的に不安定な状態となる方も、ツールの内容を踏まえて支援することで、小さい時の不安の感じ方を見ることができる。また、チェッ

クリストだけでもある程度、幼少期の背景を見ることができるため、思春期や大人対しても有効であると考えている。

(事務局)

- ・ 成人期の方達にも有効に活用できるツールだと考えている。小さい時からのストーリーを見ることができるため、ツールの活用は有効である。そのため、このツールに関しては全ての児童に対して利用していくことを想定している。

(雨宮委員)

- ・ 児童期から成人期に移行する中で、相談事業所としてずっと関わり続けている事業所では、スムーズに移行が出来ると思うが、児童期から成人に移行していく中で、児童期とは別の事業所が関わる場合や、利用しているサービスに変化がある場合などは、このアセスメントツールの情報がしっかり引き継ぐことができるのか。

(事務局)

- ・ こどもアセスメントツールは、こどものことを理解するための作業を行う「こども理解シート」と、見立てを行うための「状態把握シート」の構成となっている。そのため、「状態把握シート」を利用する事業所に引き継いでもらうことができれば、児童期における状態を引き継ぐことができると考えている。

(海野委員)

- ・ 今回、複数の専門部会から提言書が示されている。この提言書の整理については、非常に良い取組みであり、提言書自体は非常に価値のある内容となっていると思うが、提言書を提出された後は、どの会議体で受け止め、検討していく流れとなるのか。また、就労部会の部分で就労選択支援事業所の連絡会の作成を後押しすると説明があった。これは、相談支援事業所連絡会のような任意団体のイメージだと思うが、その連絡会の立ち上げによるメリットを教えていただきたい。

(松井委員)

- ・ 今年度のワーキングの中で、就労選択支援事業所と意見交換を行った。その中で、浜松市として、アセスメントをしっかり広げていくためには、連絡会を作り、浜松市として、共通の目的意識をもって支援できるよう勉強会を行い、共通認識を持つことが重要だと話があった。そのため、市として共通認識を持ちながら支援していくためにも、連絡会を立ち上げる意義はあると感じている。詳細な部分については、今後のワーキングの中で整理していきたい。

(事務局)

- ・ 提出いただいた提言書については、市の方で受領する。その後、市の中で議論をして、施行すべきものについては順次対応していくという流れで考えている。

(2) 日中サービス支援型グループホーム評価

資料を元に説明

<意見>

(大嶋委員)

- ・ この日中サービス支援型グループホーム評価の取り組みについては、しっかり取組まれていて、グループホームの良い関わりを患者さんから聞くことが出来ている。それは、この取り組みの効果だと感じる。今後、評価の枠組みのなかで、評価結果をホームページに公開することになっているが、第三者機関が評価するグループホームの機能や課題についても公表されるという認識でよいか。

(事務局)

- ・ 公開の範囲については、現在検討しているところであるが、評価の指標になる部分について浜松市障がい者自立支援協議会からの評価については、公開の対象となることが想定される。

(3) 地域生活支援拠点等について

資料を元に説明

<意見>

- ・ なし

(4) 地域体制強化共同支援会議後の進捗について

資料を元に説明

<意見>

(鈴木委員)

- ・ 今後、課題について検討を進めていった後、終結したものについては、地域の相談員にどのようなプロセスで共有されるか。

(事務局)

- ・ 検討している課題の内容次第ではあるが、研修会や連絡会等を活用し、周知する内容により適切な場で共有していきたい。

(雨宮委員)

- ・ 共同支援会議の内容について、地域課題化していくと思うが、どのタイミングで終結をしていくか。終結のタイミングはどこになるか。

(事務局)

- ・ 個別ケースからの取扱いを前提としている。個別ケースから出てきた課題について、地域で同様に困っている人がいることが想定される。地域で同様の課題を感じている人に対して、示すことが出来るように整理出来たものに対しては、終結という扱いにしている。

(5) 次年度の浜松市障がい者自立支援協議会体制について

資料を元に説明

<意見>

- ・ なし

(6) その他

○ 5歳児健康診査事業について

資料を元に説明

<意見>

(鈴木委員)

- ・ 5歳児健康診査事業について、全ての児童に対して行っていくとなるとかなりの数になるが、どのように進めていくか。イメージがあればご教示いただきたい。

(健康増進課)

- ・ 幼稚園の部分に関しては外部に委託することも含めて検討している。児童発達支援センターとも連携し、園支援の部分を協力できたらと考えている。

(大嶋委員)

- ・ 現在、子ども達が園で我慢し、ストレスを感じていたりするのに対して、先生たちが子どもと関わるためにどうしていいかわからないという状況がある。特に発達障害の子たちは、家では行動に問題がないが、大勢の中だと不適合を起こしやすい。この特性を5歳児健康診査でこの特性を把握し、家庭と園での環境調整をフォローしていくことが目的となる。また、現在試験的に行っている取組みになるが4、5人のグループを作ると、子ども達がそれぞれお互いに育っていく部分があると言うもので、こちらは国の補助をもらいながら進めている。この取組みを始めるにあたり、園の先生方をバックアップしつつ、環境を整えていく体制を庁内外で整えている段階である。

(井上委員)

- ・ 5歳児健康診査の取組みを行った結果、実際に困り感のある児の人数が具体化されると考えているが、すでにフォローされている児童も一定数いる。保健師が中核となり、小さいころから丁寧に関わって、適切な支援に繋げていくことが重要だと感じる。